

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和6年8月2日に2024（令和6年）度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（2024年8月～12月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

■ 海況

黒潮：A型基調で推移する。

（説明）2017年8月に大蛇行になり、7年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。伊豆諸島海域は、概ね「やや高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度  
 やや高め：平年値+1.0℃程度  
 高め：平年値+1.5℃程度  
 極めて高め：平年値+2.0℃程度

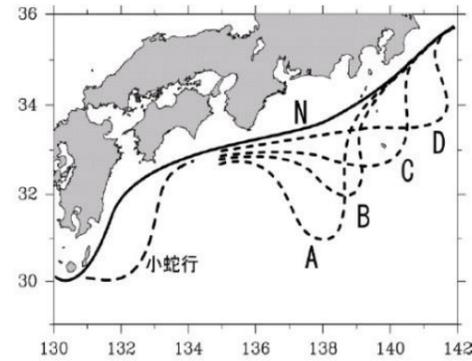


図 黒潮流型の分類

■ さば類

来遊量：不漁であった前年並みの低水準で推移する。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000年代以降増加していますが、神奈川県沿岸での漁獲量は引続き低水準で推移しています。2024年1～6月の伊豆諸島海域には、産卵のための南下は少なく、2月、3月の表層水温が20度を超える昇温時には一部北上を開始したり、海底付近に張り付いてやり過ごすような様子が観察されました。

ゴマサバは、低レベルで推移する資源量に呼応するように、1～6月の伊豆諸島海域でも、相模湾沿岸の定置網でも漁獲量は少なくなっています。これらのことから、昨年に引き続き東京湾～相模湾に8月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、このような厳しい予測となりました。

1～5月の伊豆諸島周辺で「江の島丸」が行った調査から、魚体サイズはマサバ：尾叉長29～35cm（体重300～600g）、ゴマサバ：32～36cm（350～600g）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：低調である平年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量が2010年以降増加しているほか、黒潮大蛇行によって産卵親魚が伊豆諸島海域に来遊するようになり、神奈川県沿岸でも1～5月は漁獲量が高く推移しています。一方で、6～12月のヒラゴ～小羽サイズである0歳魚の漁獲量は低く推移しています。

本県における2024年4～6月の主要定置網漁獲量は前年の1781%、平年（過去5年平均）の132%でしたが、近年の傾向から8～12月の漁獲量は低調である平年並と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調である平年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に沖合域における減少が顕著になっています。魚体サイズは体長12cm以上の大型成魚が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となっています。

2024年8～12月は、近年の傾向から体長7～9cmの未成魚が漁獲の主体となるでしょう。黒潮大蛇行が継続している2018年以降、主要定置網の8～12月漁獲量は数トンのレベルに留まっています（秋季に一時的に解消した2020年を除く）。海況の項目で解説したとおり、黒潮大蛇行は今後も継続すると予測されることから、今漁期の漁獲量も低調である平年並と考えられます。



■ マアジ

来遊量：豊漁であった前年を下回るが、平年（過去5年平均）は上回る。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は依然低調であるが、相模湾の定置網漁獲量は増加傾向にあり、本県沿岸の資源水準は中位・増加と考えられます。

相模湾（西湘）定置網の2024年上半期の漁獲量は、前年（2023年）の3.3倍であり、そのうち銘柄ジンド（0歳魚）は平年を大きく上回り、豊漁であった前年並みでした。西湘地域では、上半期の銘柄ジンド漁獲量と下半期のマアジ漁獲量には関係が見られます。2023年上半期の銘柄ジンドは豊漁であった前年並みでしたが、2023年下半期は当初予測を大幅に上回る漁獲量となりました。よって、2024年下半期は、豊漁だった前年は下回るものの、平年を上回ると予測されます。

